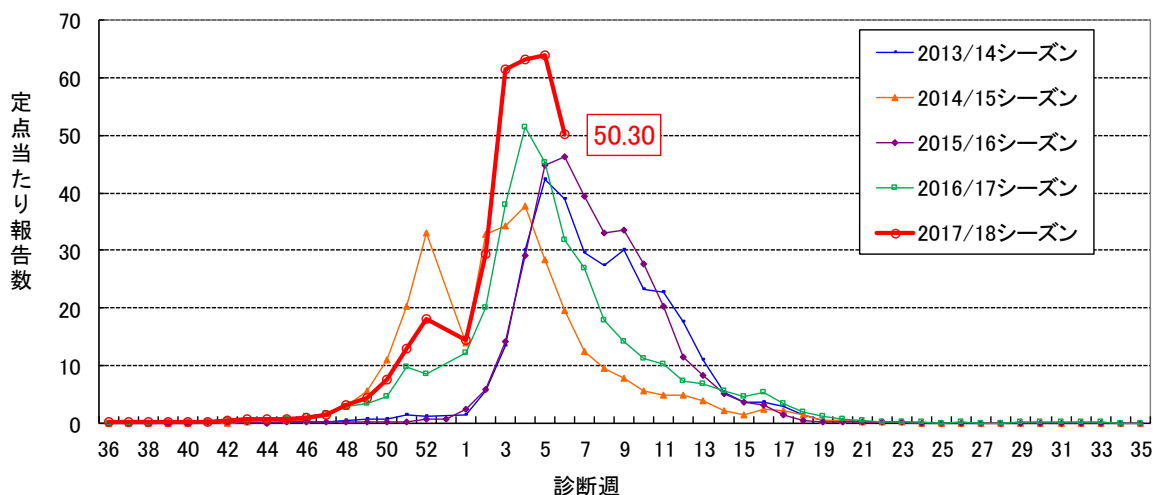


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

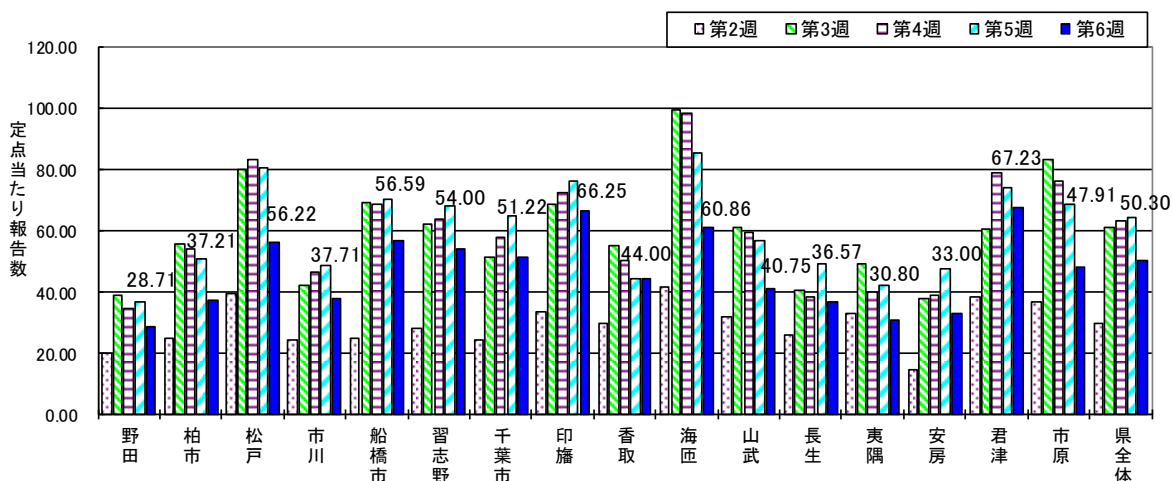
2018年第6週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は50.30(人)となり前週(63.98)より減少した。しかし、過去同時期と比較し報告が多く、警報基準値(定点当たり30)を超えている(図1)。

図1: 2013～2018年第5週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移(シーズン別)



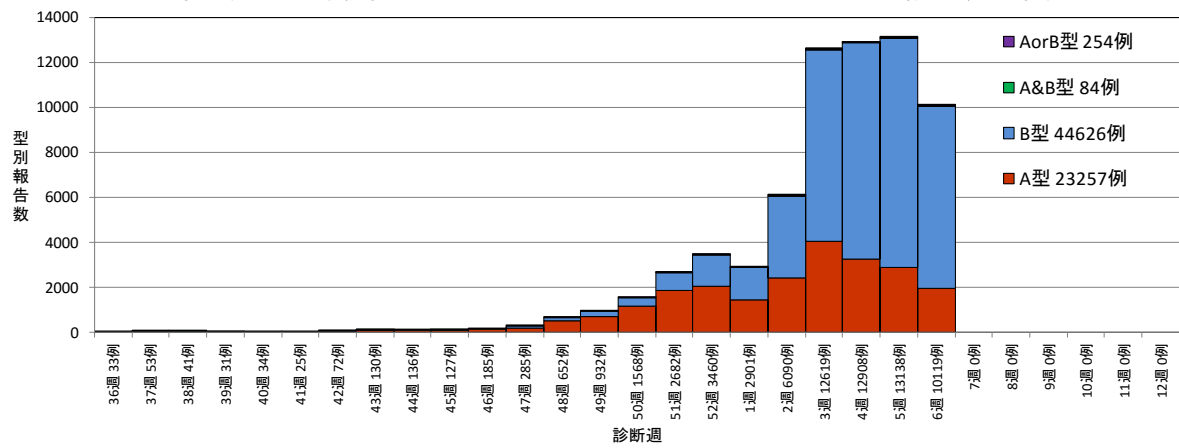
報告は県内16保健所管内(千葉市、船橋市および柏市含む)全てで前週より減少したが、君津(67.23)、印旛(66.25)、海匝(60.86)、船橋市(56.59)、松戸(56.22)、習志野(54.00)、千葉市(51.22)において県レベルの報告数(50.30)を超えている(図2)。

図2: 直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移(保健所別)



年齢群別報告割合では、5～9歳(32.0%、前週32.1%)、10～14歳(17.6%、前週20.0%)、0～4歳(15.8%、前週14.5%)が多かった。第6週の県内の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果10,119例の報告は、A型1,954例(19.3%)、B型8,096例(80.0%)、A and B型16例(0.2%)、A or B型53例(0.5%)であった。A型、B型ともに報告は前週より減少した(図3)。

図3: 県内定点医療機関の協力によるインフルエンザ型別迅速診断報告数の推移



基幹定点(9 医療機関)からのインフルエンザ入院サーベイランス報告においては 32 例の報告を認め、前週(63 例)から減少した。年齢群別では 80 歳以上 12 例、70 代 5 例、60 代 2 例、50 代 1 例、30 代 2 例、10 代 1 例、5～9 歳 3 例、1～4 歳 4 例、1 歳未満 2 例であった。